

新年のごあいさつ



一般社団法人電波産業会
会長 片山 幹雄

明けましておめでとうございます。

年頭にあたり、一言ごあいさつを申し上げます。

東日本大震災により被災された方々が平穏な新年を迎えられるとともに、一日も早い地域の復興と生活の再建を、心よりお祈り申し上げます。

去年は、当会も一般社団法人に移行するとともに、主要な業務である通信・放送分野における電波利用システムに関する調査・研究・開発業務、照会相談業務等の普及啓発事業、標準規格の策定業務等のいずれも順調に推進することができました。これもひとえに総務省をはじめ関係団体及び会員の皆様方のご支援、ご協力の賜物であり、改めて深く感謝する次第でございます。

さて、去年の東日本大震災では、「通信・放送」の重要性が改めて認識された一方、その課題も明らかになり、関係機関においては、緊急事態における通信手段を確保する方法や、耐災害性の向上を目指すネットワークインフラ等の検討が進められています。また、政府においては、「光の道」基本構想と、それを踏まえた工程表に基づき、ワイヤレスブロードバンド実現のための周波数の再編、一定の条件のもとで本来とは異なった目的で周波数を利用するホワイトスペースの活用、電波の有効利用を推進するための周波数オークションの導入に関する検討が行われています。

当会をはじめ我々の産業界を取りまく状況を顧みますと、震災復興、タイの大洪水、円高、国際競争力の低下等、非常に厳しい環境におかれています。その一方で、通信関係では、従来の携帯電話とパソコンの双方のメリットを備えたスマートフォンが、個人生活や企業活動の様々な場面で利活用される状況となりました。これに対応して、携帯電話のネットワークは、第3世代から3.9世代へと着実に進化しています。また、自動車の安全運転を支援するシステム、省電力を実現するためのスマートメータなど、電波を利用した新たなシステムの研究開発・標準化が進められています。

放送関係では、アナログ方式の地上テレビ放送が、昨年7月に一部の地域を除いて、予定どおり停波されるとともに、地上デジタル放送の周波数リパック作業も順調に推移しています。BSデジタル放送については、新規の放送事業者によるサービス提供の開始により、昨年10月からは、テレビ、ラジオ及びデータ放送をあわせて24チャンネルに、今春から31チャンネルに拡大し、多チャンネル化時代を迎えます。また、今年4月からは、VHF-High帯による携帯端末向けのマルチメディア放送の開始が予定されているほか、更に将来のシステムとして、超高精細度画像とマルチチャンネル音響システムで高臨場感を実現するスーパーハイビジョン、特別な眼鏡を必要としない立体テレビなどの研究開発が進められています。

さらに、国際競争力の強化を目的として推進してきました我が国の地上デジタル放送方式(ISDB-T)の国際普及は、中南米からアジア、アフリカ等の地域への展開へと、新たなグローバル市場創出に向け、着実に推進しています。

政府による電波有効利用政策の円滑な推進とともに、社会の要請にこたえるため、新しい電波利用システムを迅速に研究開発し標準化することや、電波の環境問題を調査研究していくことの大切さは、ますます高まってきております。このため、当会では、電波利用のための開発・標準化の推進とともに、総務大臣指定の「電波有効利用促進センター」としての事業に、積極的に取り組んで参りたいと思っておりますので、会員皆様方の一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、会員の皆様方のますますのご発展とご多幸を祈念いたしまして、新年のごあいさついたします。

ARIBからのお知らせ

第92回電波利用懇話会開催のお知らせ 「スマートフォン向け放送局『NOTTV』の開局に向けて」

株式会社 mmbi は、平成 23 年 10 月に総務省から V-High マルチメディア放送の移動受信用地上基幹放送業務の認定を受け、平成 24 年 4 月 1 日から放送サービスを開始する予定です。マルチメディア放送は、スマートフォンをはじめとした携帯型の受信機に対して、ニュース・天気予報・スポーツ中継などのリアルタイム型の放送と、音楽・ゲーム・映画・電子書籍などの情報を提供する蓄積型の放送を柔軟に組み合わせて提供する新しいサービスです。また、これまでの放送の概念を一新し、一方向の情報提供ではなく、インタラクティブなサービスの提供が実現されようとしています。

当会では、下記により、サービス開始が目前に迫ってきた株式会社 mmbi の石川 昌行 取締役 経営企画部長をお招きし、株式会社 mmbi が計画しているマルチメディア放送の具体的なサービスの内容を中心にご講演を頂くこととなりました。

会員の皆様には、是非ともご参加下さいますようお願い申し上げます。

記

- 1 日時 : 平成 24 年 1 月 24 日(火) 午後 2 時から 3 時 30 分まで
- 2 場所 : 一般社団法人電波産業会 会議室 (日土地ビル 11 階)
〒100-0013 東京都千代田区霞が関 1-4-1 日土地ビル 11 階
地図 (<http://www.arib.or.jp/syokai/map/index.html>)
- 3 題名 : スマートフォン向け放送局『NOTTV』の開局に向けて
- 4 講師 : 株式会社 mmbi 取締役 経営企画部長 石川 昌行 様
- 5 対象 : ARIB 正会員及び賛助会員
- 6 参加者 : 70 名程度 (定員になり次第締め切らせていただきます。)
- 7 申込先 : 当会ホームページ (<http://www.arib.or.jp/>) の「講演会等開催案内」まで
- 8 参加費 : 無料
- 9 問合せ先 : 企画国際部 電波利用懇話会事務局 芝山まで
TEL: 03-5510-8592 e-mail: arib-seminar2011@arib.or.jp

新春講演会開催のお知らせ 「広がるモバイルブロードバンドの世界と M2M ビジネスの今後」

一般社団法人ブロードバンド推進協議会(BBA)主催、一般社団法人電波産業会及び一般社団法人情報通信技術委員会後援により、BBA 新世代ブロードバンド研究会・新春行事として「広がるモバイルブロードバンドの世界と M2M ビジネスの今後」についての講演会を下記により開催いたします。

近年のモバイルデータ通信の高速化により、スマートフォンやスマートタブレットの利用が消費者を中心に爆発的な勢いで進んでいます。4G、WiMAX、LTE などの新たな高速モバイルインフラの登場でそれらはさらなる進化を進められると思われまます。一方で、これらの高速データ通信インフラは、従来 PHS や ISDN を利用していた POS、テレメトリー、セキュリティなど M2M のインフラとしても新たな可能性を導きだしてくれると思われまます。いままで、特定業種、企業の単一の垂直統合モデルとして構築されてきたシステムが、チップセットや端末インタフェース、Zigbee をはじめとする近接無線センサー機器の標準化により、安価な機器が提供されると同時に、固定、無線を問わず IP ベースのネットワークでクラウドに結びつき、さまざまなプレイヤーにより新たなサービスモデルとして展開されようとしています。これにより、従来から M2M システムが利用されてきた工場や店舗の管理、セキュリティといった分野に加え、導入のハードルが高かった医療や農業といった分野、また、注目を浴びる環境やエネルギー、自動車などの分野に波及すると思われまます。また、M2M の国際的な規格化の検討も進められています。

そこで、BBA では、高速通信の今後の展開とそれによってもたらされる M2M の今後の可能性について、規格化の動向、制度面をはじめとして、さまざまな適用分野の事例、今後の課題を有識者による研究会形式で明らかにし、ベンダー、キャリアの議論をこえ、あらゆる産業にわたる多くのパーソナルプレイヤーへ向けた提言をおこなってゆきまます。

ARIB 会員の皆様も、ぜひご参加下さいますようご案内申し上げます。

本新春講演会への参加をご希望される方は、事前登録制ですので「[BBA新春講演会](#) [【ご招待】](#)」の登録フォームにより、お申込みください。

記

- 1 日時 : 平成 24 年 2 月 2 日 (木) 15 : 00 開始 (14 : 30 開場)
- 2 場所 : TEPIA (財団法人機械産業記念事業財団) (定員 200 名)
〒107-0061 東京都 東京都港区北青山 2 丁目 8 番 44 号
地図 (<http://www.tepia.jp/access/index.html>)
- 3 主催 : 一般社団法人ブロードバンド推進協議会
- 4 後援 : 一般社団法人電波産業会、一般社団法人情報通信技術委員会
- 5 講演概要 :
第 1 部 BBA 新春講演会「広がるモバイルブロードバンドの世界と M2M ビジネスの今後」
(1) 15:00-15:40 「Softbank4G と M2M ビジネス」(仮) 40 分
ソフトバンクモバイル株式会社 取締役特別顧問 松本 徹三 氏
(2) 15:40-16:20 「M2M とクラウドビジネス」(仮) 40 分
日本電気株式会社 キャリアサービス事業本部 副事業本部長 奥屋 滋 氏
(3) 16:30-17:10 「M2M グローバル動向」(仮) 40 分
クアルコムジャパン株式会社 代表取締役会長兼社長 山田 純 氏
(4) 17:10-17:30 「M2M 標準化のねらい」 20 分
一般社団法人情報通信技術委員会 業際イノベーション本部本部長 富田 二三彦 氏
第 2 部 BBA 賀詞交歓会 17:30-19:00 (会員+招待者) 会場同
BBA 理事年頭ごあいさつ、懇親会
- 6 参加費 : 無料
- 7 問合せ先 : 一般社団法人ブロードバンド推進協議会事務局
E-mail: info@bba.or.jp

第 82 回規格会議の決議に基づく標準規格等の電子ファイルの公開について

平成 23 年 12 月 6 日に開催された第 82 回規格会議の決議に基づき以下の標準規格の改定 9 件、技術資料の策定 1 件、改定 5 件の電子ファイルを ARIB Web ページに公開しましたのでお知らせいたします。

- 1 IMT-2000 DS-CDMA and TDD-CDMA System ARIB STANDARD / ARIB Technical Report (ARIB STD-T63 / ARIB TR-T12 Ver.9.20)
- 2 IMT-2000 MC-CDMA System ARIB STANDARD / ARIB Technical Report (ARIB STD-T64 / ARIB TR-T13 Ver.5.70)
- 3 LTE-Advanced System ARIB STANDARD (ARIB STD-T104 Ver.1.10)
- 4 WirelessMAN-Advanced System ARIB STANDARD (ARIB STD-T105 Ver.1.10)
- 5 デジタル放送に使用する番組配列情報標準規格 (ARIB STD-B10 5.0 版)
- 6 放送用ビット直列インタフェースにおけるパケットデータ伝送方式標準規格 (ARIB STD-B17 1.1 版)

- 7 デジタル放送用受信装置標準規格 (望ましい仕様) (ARIB STD-B21 5.1 版)
- 8 デジタル放送におけるデータ放送符号化方式と伝送方式標準規格 (ARIB STD-B24 5.5 版)
- 9 デジタル放送におけるダウンロード方式標準規格 (ARIB STD-B45 2.1 版)
- 10 制作・取材用リアルタイム IP 映像伝送における品質確保のためのガイドライン技術資料 (ARIB TR-B34 1.0 版)
- 11 地上デジタルテレビジョン放送運用規定技術資料 (ARIB TR-B14 4.7 版)
- 12 BS/広帯域 CS デジタル放送運用規定技術資料 (ARIB TR-B15 5.5 版)
- 13 セグメント連結伝送方式による地上マルチメディア放送運用規定技術資料 (ARIB TR-B33 1.2 版)

電子ファイルのダウンロードが初めての方は、以下のARIB Webページの注意事項等を確認の上、行って下さい。

http://www.arib.or.jp/tyosakenkyu/kikaku_tushin/index.html

ダウンロードリスト (一覧表) へのリンクも、上記ページに張られています。

なお、IPR検索サービスについては、今回の規格会議でのIPR情報を近日更新予定です。この検索サービスは以下のURLでご利用いただけます。

<http://www.arib.or.jp/tyosakenkyu/sakutei/IPR/index.php>

ARIBの動き

第 179 回業務委員会を開催

第 179 回業務委員会を開催しましたので、その概要をお知らせします。

- 1 日時 平成 23 年 12 月 14 日(水) 午後 4 時から 5 時 14 分まで
- 2 場所 当会第 2・3 会議室
- 3 議事概要
 - (1) 第 82 回規格会議の結果についての報告
 - (2) 電波産業年鑑 2011 の発行についての報告
 - (3) 最近開催された ITU-R SG5 会合などの主要結果についての報告
 - (4) FOBTV サミットの主要結果についての報告

第 91 回電波利用懇話会を開催

平成 23 年 12 月 15 日(木)に、第 91 回電波利用懇話会を当会の会議室にて開催しました。今回は、当会と衛星測位システム協議会との共催により、米国ジョージワシントン大学 エリオット国際学部 宇宙政策所長のスコット・ペース博士を講師にお迎えし、「GPS と米国

LightSquared 社との混信問題について」というテーマでご講演いただき、60 名を超える当会と衛星測位システム協議会の会員の皆様に受講いただきました。

講演では、GPS と米国 LightSquared 社との混信問題についての最新動向やペース博士が昨年 9 月に行った議会証言の内容について、逐次通訳の時間も含め、約 3 時間にわたる説明がありました。

全体をとおり受講者の高い関心を集め、熱心に聴講いただき、この問題の経緯及びこれからの見通しや米国の測位衛星計画への影響など、数多くの質疑応答が行われました。



第 91 回電波利用懇話会の様子とペース博士

第 187 回技術委員会（通信・放送合同）を開催

第 187 回技術委員会（通信・放送合同）を開催しましたので、その概要をお知らせします。

- 1 日時 平成 23 年 12 月 21 日(水) 午後 4 時から 5 時 30 分まで
- 2 場所 当会第 2・3 会議室
- 3 議事概要
 - (1) M2M 標準化活動の統合に関する第 3 回非公式ベルリン会合の概要についての報告
 - (2) 技術委員会運営細則の改正についての審議（改正内容そのものに対して異議はなかったが、記述内容の不統一を見直した上で改めてメール審議とすることとした）
 - (3) 電波産業年鑑 2011 の発行についての報告
 - (4) 第 82 回規格会議の結果についての報告
 - (5) ITU-R SG5 関連会合の主要結果についての報告
 - (6) ESTI との協力協定書の締結についての報告

高度無線通信研究委員会
標準化部会 WP5D 対応 WG 主査 新 博行
(株式会社 NTT ドコモ
無線アクセス開発部 無線方式担当 担当課長)



WP5D 対応 WG 主査を務めております、NTT ドコモの新と申します。本 WG (Working Group) は、ITU 無線通信部門 (ITU-R) 第 5 研究委員会 (SG5: Study Group 5) の下部組織である 5D 作業会合 (WP5D: Working Party 5D) の研究 (第 3 世代以降の携帯電話である IMT (International Mobile Telecommunications) システムの検討を所掌) に対して、我が国の対処方針と寄与文書の前案を作成することを目的として活動しています。本 WG で取りまとめられた前案は、ARIB の高度無線通信研究委員会標準化部会でのご審議、最終的には総務省情報通信審議会 ITU-R 部会地上業務委員会のご審議を経て、WP5D における日本代表団の活動に活かされています。

WP5D は、昨年 10 月の第 12 回会合にて、低速移動時 1Gbit/s、高速移動時 100Mbit/s の伝送速度を実現する IMT-Advanced システムの無線方式の詳細仕様を、新たな ITU-R 勧告案として取りまとめたところです。この勧告案の完成に向けては、2000 年頃からの第 3 世代携帯電話の後継システムのビジョン作成に始まり、新たな携帯電話向け周波数の割り当てや、3GPP、IEEE 等の団体と連携した標準化作業など、WP5D 対応 WG のメンバーを含む我が国の多数の関係者が、活動を推進してきました。この勧告案は、本年 1 月 16 日から開催される ITU-R の無線通信総会にて最終承認され、発行される予定となっています。

また、スマートフォンの普及拡大等に起因して、携帯電話のトラヒックの急増問題が、世界的に指摘されています。本問題に関する WP5D での検討に対して、WP5D 対応 WG は、中国、韓国との関係者と連携をしつつ、積極的な貢献を行ってきました。本年から始まる ITU-R の新たな研究会期では、本問題にどのように取り組むべきかの技術的な検討が WP5D での主要な課題になると想定され、WP5D 対応 WG としても、引き続き積極的な貢献を行っていきたいと考えております。

現在のライフスタイルの中で欠かせない存在となった携帯電話の技術・運用に関する議論を ITU-R で行うに当たり、WP5D 対応 WG の活動は益々重要になってくると考えております。今後も皆様のご協力を得ながら、本活動に貢献して参りたいと思いますので、引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

編集後記

新しい年がすばらしいものでありますように。本年も当会企画国際部が編集しております ARIB ニュースを、宜しくお願い致します。
(敬天愛人)

ARIB

Association of Radio Industries and Businesses

ARIB NEWS
発行所

一般社団法人 電波産業会

〒100-0013 東京都千代田区霞が関 1-4-1 日土地ビル11F
TEL 03-5510-8590 FAX 03-3592-1103
<http://www.arib.or.jp> E-mail arib_news@arib.or.jp